

第7分科会

モチベーションクライシスと向き合う

分科会概要：

モチベーションクライシスと向き合うことの必要についてです。

2014年度FDフォーラムにおいて、同一テーマで分科会を実施しましたが、今回内容を更新しもう一度皆様とご一緒に課題に向き合いたいと思います。

近年は入学後にすぐに登校しないケースや途中の学年で退学していく学生も少なくない状況も見受けられます。学生たちの大学入学動機とともに大学で学ぶことの意欲低下の検証が必要であると考えます。多くの大学ではこれら学生の抱える悩みや不安などに対応するためにさまざまな支援策が実施されていると思いますが、その策がどこまで効果を発揮しているのか、多くの大学が事例を持ち寄り確かめあう必要があります。

例えば、学生相談に対する取り組みと課題、修学支援としての取り組みと課題、学習支援のための取り組みと課題、ピアサポートによる取り組みと課題などが考えられますが、モチベーションクライシスに向き合い、学生たちを支援していく場合には、学生の保護者や関係機関団体との連携も必要になっていくのではないのでしょうか。今回は、大学全体としての取り組みの必要、教員間での連携と協働で行う連携支援の必要など、様々な角度から考えていきたいと思います。

モチベーションクライシス=大学生の学習に対する意識の危機的な低下とする

<プログラム>

趣旨説明 三好 明夫 氏 京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 教授

報告1. 眞砂 照美 氏 佛教大学 社会福祉学部 教授

報告2. 永野 典詞 氏 九州ルーテル学院大学 人文学部 教授

報告3. 小原 教孝 氏 学校法人平成医療学園 常任理事(大学担当理事) /
宝塚医療大学 統括長・保健医療学部 教授

質疑応答